

コロラドスタディツアー2017

(8月4日～8月12日)

実施報告書



(公財)出羽庄内国際交流財団

目 次

コロラドスタディツアー

- ◆ はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1
- ◆ スタディツアー 日程表・・・・・・・・・・ P. 2
- ◆ デンバー地図・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3
- ◆ 日記・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4
- ◆ 参加者によるツアー全体報告書・・・・・・・・ P. 15
 - ✧ 齋藤 咲（鶴岡第一中学校 2 年）・・・・・・・・ P. 15
 - ✧ 齋藤 希空（鶴岡南高等学校 2 年）・・・・・・・・ P. 17
 - ✧ 齋藤 ゆい（鶴岡南高等学校 2 年）・・・・・・・・ P. 20
 - ✧ 高橋 愛子（鶴岡第五中学校 2 年）・・・・・・・・ P. 22
 - ✧ 我妻 那音（羽黒高等学校 2 年）・・・・・・・・ P. 25

はじめに

出羽庄内国際村では、2008 年に「コロラドツアー」を開始し、今年で 10 回目を迎え、これまで 65 名の中学生から社会人の皆さんに参加していただきました。10 年という長い間続けることができたのは、現地で私たちを温かく受け入れてくださった方々のおかげです。毎年このツアーの調整、並びに現地での同行をしてくださる村治孝浩さんや、今年初めて村治さんのアシスタントとして活躍してくれた中曽根レオさん、ホストファミリーの調整をしてくださったヴァネッサ・トランさん、楽しく英語を指導してくださったジョアン・リッツィーさん、また今年も私たちをピクニックに招待してくださった日系人会の皆様に御礼申し上げます。

さて、今年の一般向けツアーは中学生 2 名、高校生 3 名の、女子生徒 5 名が参加しました。昨年の参加者は男子生徒だけでしたので、まったく違った雰囲気ツアーとなりました。旅行準備などの事前研修のほかに、庄内町で外国語指導助手をしているコロラド州出身のマシュー・ファレルさんに今年もご協力いただき、2 回の英語特別レッスンを実施しました。今年の参加者の皆さんは英語に対してそれほど苦手意識を持っていないようで、研修の時からすでに英語でたくさん発言していました。現地に着いてからも、初めのうちは緊張していたようですが、それからは積極的にホストファミリーや現地の方と交流を深めていました。

ツアー中は、一般家庭にホームステイをし、アメリカの日常生活を体験させていただきました。また、アクティビティでは、今年は天候に恵まれませんでした。印象深い霧の中での乗馬体験や雨で寒い中のラフティングなど、自然を満喫することができました。今年は歴史博物館なども訪れ、コロラド在住の日系人に関する事など、新しい学びもありました。

この報告書には参加者が経験したこと、感じたことがそれぞれの視点で書かれています。この報告書が参加者の皆さんの旅の記念となり、また今後のツアーに参加を希望される方への後押しとなれば幸いです。

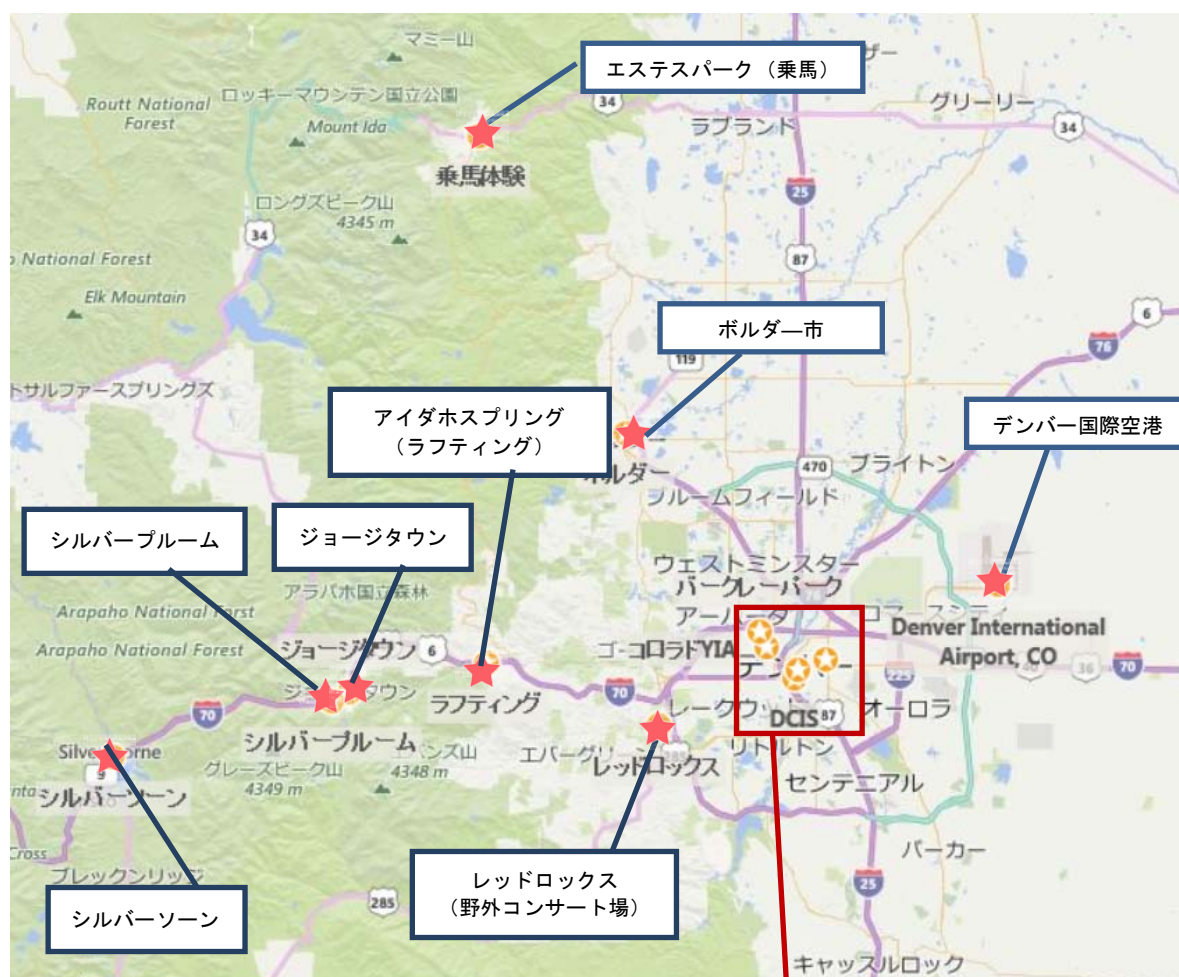
(公財) 出羽庄内国際交流財団
佐藤 綾子

スタディツアー 日程表

期間：2017 年 8 月 4 日～8 月 12 日 9 日間

月日	時間	訪問先など	備考
8/4	8 : 40	庄内空港→羽田空港	全日空 396 便
	17 : 30	成田空港出発	ユナイテッド航空 142 便
	14 : 30 ※現地時間	デンバー国際空港に到着、 ホストファミリー宅でウェルカム パーティー	
8/5	終日	ホストファミリーデー	
8/6	午前～昼	日系人会ピクニックに参加	
	午後～	ホストファミリーデー	
8/7	午前	エステスパークで乗馬体験	
	午後	デンバー自然科学博物館見学	
	夕方～	英語レッスン	
8/8	午前	デンバー市内公立高校 (DCIS) 見学	
	午後	デンバー大学、ボルダー市見学	
8/9	午前	ジョージタウン見学	
	午後	ラフティング体験	
	夕方～	英語レッスン	
8/10	午前	レッドロックス (野外コンサート場) 見学	
	午後	コロラド歴史博物館、州庁舎見学	
	夕方～	コロラドユースインアクションの メンバーと交流会	
8/11	12 : 40	デンバー国際空港 出発	ユナイテッド航空 139 便
8/12	21 : 20	羽田空港→庄内空港	全日空 399 便

コロラドスタディツアー 訪問先マップ



デンバー中心街地図



コロラドスタディツアー 日記

8月4日（金） ～1日目～

担当：高橋 愛子

成田空港で出国手続きを終え、ユナイテッド航空機に乗り込むと、機内は外国人でいっぱい。いよいよアメリカでの憧れだったホームステイが始まると思うと、わくわくして眠れませんでした。

約12時間のフライトを終え、いよいよアメリカへ入国！デンバーの景色は鶴岡の景色とどこか似ていて、自然豊かな場所でした。



到着後、ヴァネッサさんの家でパーティーがあり、みんなの家のホストファミリーが集まりました。ヴァネッサさんのお料理がとても豪華で、おいしかったです。

パーティーの途中でホストファミリーの子ども達と、近くの学校の校庭で「グラウンディーズ」というゲームをして仲良くなりました。

ホストファミリーはとても温かく、初対面の私に笑顔で話しかけてくれました。とてもうれしかったです。

私の弟と同じ年(11歳)のマヤちゃんは、親しみやすく優しくて、話も合い、すぐに打ち解けることができました。

その日の夜はマヤちゃんと一緒に寝ました。寝る前までずっとおしゃべりをして盛り上がっていました。アメリカ1日目から、とっても楽しかったです。



8月5日（土） ～2日目～

担当：齋藤 希空

今日はホストファミリーデーでした。朝からホストファーザーのマットがドーナツを買ってきてくれました。チョコレートがかかったものとさくらんぼのドーナツを食べました。私は甘いものが大好きなので、朝から幸せな気分になりました。

午前中は那音がステイしているヴァネッサ一家と一緒にプールに行きました。子ども達とプールの中でバレーやバスケ、飛び込み台から飛び込んだりしました。那音と私のそれぞれがステイしている家の女の子



をおんぶしてバレーボールをしていたので後半はくたくたでした。それでも、久しぶりにプールで遊べてとても楽しかったです。一緒に遊ぶことで一気に仲良くなれた気がして、これからの生活がより楽しみになりました。

昼食はプールにあったグリルでソーセージを焼いてホットドッグを作りました。泳いで空腹だった私にとっては最高においしかったです。



夕方からは近所の人たちのバーベキューに行きました。子どもがたくさんいて、みんなで鬼ごっこをしました。初めは緊張しましたが、ケイトリンが隣にいてくれたので、2人の女の子とハンモックやブランコに乗ったりして楽しい時間を過ごせました。とても充実した1日になりました。



8月6日（日） ～3日目～

担当：齋藤 ゆい

今日のメインイベントは日系人会ピクニックでした。少し肌寒い中、私たちは芋煮の準備をし始めました。孝さんが言うには、「今日は寒いから、芋煮を目当てに来る人が多いはず！だからみんな頑張って作るんだよ！」と…。このとき私は、「そうなんだー」と思う程度でした。



日系人会ピクニックと言うだけあって、私が思っていたよりもたくさんの日系人の方々が来ていました。

その中には、私の高校の卒業生、つまり先輩がいたのです！その先輩がとてもフレンドリーだったというのもあるかもしれませんが、それを聞いただけでも親近感がわいてきて、緊張が和らぎました。

お昼になり、午前中よりも人数が増え、更に活気が出てきました。そしてさっき孝さんが言っていた通り、まだ芋煮が出来上がっていないというのに行列がすでにできていたのです…！！私は孝さんの予想が当たったことよりも、山形の芋煮がアメリカでもおいしいと思われていることに驚いたし、同時にうれしさも感じました。味噌の庄内風の味付けと醤油の内陸風の味付けの2つを作ったのですが、内陸風の方が人気のようなのでした。いつも庄内風を食べる私にとっては、少し悔しさがありました。牛肉に負けたのか…。

そしてとうとうやってきました！花笠音頭のお披露目です！みんなで黄色い法被を身にまとい、息を合わせて踊った結果、会場からは次々と拍手が！現地にいらっしゃる方の和太鼓演奏との即興のコラボも迫力が増してとても良かったです。



8月7日（月） ～第4日目～

担当：高橋 愛子

この日は朝食付きの乗馬体験のために、朝 3 時で起きました。実は前日、ホストファミリーのミランが学校で合唱をされていて、私が合唱部だと言うと、2人で歌うことに……。夕食後、咲ちゃんの部屋で「Beauty and the Beast」の英語版のデュエットソングをミランと歌いました。ミランの歌声がきれいで楽しくデュエットすることができました。その後も、ずっと 3 人でおしゃべりをしていたので、寝るのが遅くなってしまい、4 時間しか眠ることができませんでした。眠かったのを覚えています。

乗馬は最初は乗っているのが怖かったけど、だんだん慣れてきました。あいにくの雨模様でしたが、コロラドの広さ、美しい景色に心を奪われ、とても感動しました。



その後、デンバー自然科学博物館に行きました。私と咲ちゃんは、ネイティブアメリカンの展示品のコーナーを見に行きました。アメリカの歴史の深さにとても驚いたし、多くの学びがありました。また、歴史好きな私にはとても興味深かったです。



アメリカの先住民族の衣装や家、暮らしなどの展示品を初めて見ました。

ネイティブアメリカンの帽子（ウォーボンネット）や衣装を私も着てみたかったです。

8月8日（火）～第5日目～

担当：齋藤 ゆい

今日の午前中は、“Denver Center for International Studies” という地元の公立高校の見学に行きました。この学校ではたくさんの言語について学ぶことができるそうです。ラコタ語という言語は、この学校だけが教えているそうです。多くの言語を学習できるだけあって、いろんな地域からここに生徒たちが通っているようでした。少しの間、コロラドに住んでここに来て勉強しているという日本人の生徒さんもしました。



校舎内を見て一番感じたのは、廊下が広い！ということです。今まで洋画などで見たことはありましたが、実際に見てみると、2、3列くらいで並んでも余裕があるほどでした。「アメリカのものは本当に何もかもが大きいな」と、ここでも思いました。

この学校には食堂があり、生徒さんたちのために安い価格で食事をとれるようにしているそうです。価格だけではなく健康面のことも配慮して、できるだけヘルシーなものを出すようにしているそうです。朝には家で朝食をとってこなかった子のために、無

料でスムージーを提供していると聞きました。この食堂はどこまで生徒さんのことを思っているだろうと思ってしまいました。ちなみに気になる味の方は…。

学校を案内してくれたお礼に、最後に私たちから「旅立ちの日に」の合唱のプレゼントをしました。といってもその場で急遽することになったので、私たちもどうな



るかと思いましたが、歌い終わるとすぐに拍手をしてくれました。感動というよりも何かに驚いている様子だったので、何に驚いているのかと思ったら、ハモリにびっくりしたようでした。即興だったので出来のほう心配でしたが、喜んでくれたみたいで良かったです。

午後にはボルダーという街に行きました。この街にはたくさんのおしゃれでかわいい建物がたくさんありました。はじめにボルダー大学を訪れたのですが、校舎は大学とは思えないほどとても立派で、歴史を感じるものでした。孝さんによると、この大学にはやはり歴史があるようで、リッチな人たちが通っているとのこと…。ここに入学なんてできるはずもないから、記念に写真撮影だけでも…。ということでみんなでサングラスをかけてパシャリ！



そのあとは、ボルダーのパーリストリートへショッピングに行きましたが、ここはリッチな街…。売っているものも高くて眺めることしかできないものがほとんどでした…。それでもやっぱり楽しかったものは楽しかったです！



8月9日（水） ～第6日目～

担当：我妻 那音

今日の午前中はジョージタウンという町へ行ったり、シルバープルームという町のアウトレットモールに行ったりしました。

ジョージタウンという名前を聞いたとき、古いアメリカの印象を持ちました。いざ行ってみると、日本で言う昔ながらの町という感じでした。天然石を売るお店や、たくさんのお菓子を売るお店など、見どころ満載でした！さらに私はそこで生まれて初めてハチドリを見ました。すごい！と思って写真を急いで撮ったら、映っていたのはハチドリの隣にいた「蛾」でした・・・。



そして午後はラフティングをしました。私はプールなどは好きですが、川や海は怖くて苦手だったので、正直最初はやるのが嫌でした。

初めに説明を受けました。全部英語でさっぱりわかりませんでした。とてつもなくノリの良いインストラクターさん達でした。バスで山を登

り、出発地点へ行きました。その後オールの使い方をレクチャーしてもらい、ラフティングがスタートしました。最初はあんなに嫌だったのに、始まるともう楽しくて仕方ありませんでした。他のボートの人と水をかけ合ったり、岩の上にボートが乗っかったり、ボートが急流を落ちて波がかかって来たり・・・寒さを忘れる楽しさでした。

日本でラフティングができるならやりたいと思うほど、初のラフティングは面白かったです。



8月10日（木） ～第7日目～

担当：齋藤 咲



今日は、レッドロックスに行きました。レッドロックスは大きな岩でつくられたライブ会場でした。標高が高く酸素が薄いので、階段を上っただけでも息切れをしてしまいました。それなのにトレーニングをしている人がたくさんいて、すごいなと思いました。

そこで、孝さんからアメリカに来て一番心に残っていることは何かと、質問されました。

みんなそれぞれ思ったことを言い、それに対してアメリカのことや日本との違いなどについて説明してくれました。今回のツアーで考えたこともないようなことを考えさせられました。私が一番印象に残っているのは、日本では障害者が社会に合わせようとさせているが、アメリカでは逆に、社会が障害者に合わせようとしていることです。それを聞いて私は日本もそんな風になったらいいなと思いました。そのあとは、お土産を各自買いました。このツアーで恒例となっていた、孝さんのアイスクイズに当たり、アイスではなくチョコレートをごちそうになりました。

午後からは、デンバー歴史博物館に行きました。太平洋戦争中に日系アメリカ人が受けた差別について語られたビデオを見ました。戦争は怖いなと改めて感じましたが、コロラド州の人が、差別するのはおかしい！と反対したことはすごいと思いました。



次にコロラド・ユース・イン・アクションのメンバーと交流をしました。歌を歌ったり、ゲームをしたり、写真を撮ったりしました。日本語を頑張って話しているのが伝わってきて、かわいかったです。私の英語もこんな風に聞こえているのかな？と思いました。ジョアンにコロ

ラド州の州旗が書かれているクマのマグネットをもらいました。とてもかわいかったのでうれしかったです。



最後に、シンシアさんの家でパーティーをしました。ついに帰るんだという悲しい気持ちになりました。でも、パーティーは本当に面白かったです。レオと先輩方とたくさん話して笑いました。最後にとってもいい思い出になりました。



8月11日（金） ～第8日目～

担当：齋藤 咲

今日は、アメリカ最終日でした。朝起きた瞬間、「今日帰らなきゃならないのかー」と寂しくなりました。このツアーは本当に楽しくて一日一日がどんどん過ぎてしまいました。朝ごはんを食べてホストファミリーと最後に話そうと思いましたが、マヤが学校に行っていて会えなかったのもとても残念でした。でも、ラジュとデイビッドとミランと話せたことはうれしかったです。孝さんが迎えに来て、ホストファミリーとお別れになった瞬間、悲しくて帰りたくないと思いました。初めてのアメリカに不安だった私に家族みたいに接してくれて本当にうれしく、感謝してもしきれないほどでした。「また会う！」と心の中で決心し、「その時までにはもっと英語を上達させよう」と思いました。空港に向かう車の中で、帰るのが嫌になってちょっぴり涙目になってしまいました。帰ったら、宿題と部活が待っているのも夢から覚めてしまう気がしたからです。

空港に着いて、まず荷物を預けました。そのあとに身体検査でしたが、そこで、お世話になった孝さんとレオとはお別れだったので、またまた悲しくなりました。日本に来たら鶴岡にも来てねーと伝えましたが、こんなにも悲しくなるとは思ってもいませんでした。

飲み物を何も持っていなかったのもどが渴いて死にそうでした。自由時間があつたので、売店で飲み物をいっぱい買いました。飲んだらゆっくりしたので、そのあとは、愛子ちゃんとお店を見て回りました。



3回目の飛行機では、行きの飛行機よりも寝ることができました。前の日はだいたい4時間くらいしか寝られなかったのも、かなり熟睡しました。飛行機が窓側だったので、景色を見て「きれいだなー」と思うとともに「帰らなきゃならないのかー」という気持ちになりました。

8月12日（土） ～第9日目～

担当：我妻 那音

あんなに楽しかった日々も終わりました。9日間って長いなと思っていたのに、一日一日が新しい発見、驚きや楽しさでいっぱい、あっという間でした。

日本に着いて周りを見たらたくさんの日本人。4日にデンバーに着いたときとまったく違う風景でした。すぐに理解できる日本語の看板。ああ、もうアメリカじゃないんだとなんだか少しショックでした。

着いてすぐに夕食。日本食を久しぶりに見た気がしました。やっぱり日本食って美味しいと感動しましたが、ホストマザーのご飯がもう一度食べたいと思う瞬間でもありました。

今回のツアーのメンバーでまた行けたらいいと考えながら私は空港を後にしました。私の中には楽しかった思い出でいっぱいです。9日間お疲れ様でした。



コロラドスタディツアー 報告書

コロラドスタディツアー報告書

鶴岡第一中学校 2年 齋藤 咲

私がこのツアーに参加しようと思ったきっかけは、日本では経験することのできないような体験をしたり、異文化に触れてみたかったからです。また、前からアメリカに行きたいと憧れていましたが、英語ができないからという理由であきらめかけていました。しかし、このツアーのチラシを見てこのツアーだったら、英語を学べるうえに色々な体験ができるんだ！と思い参加しました。

事前研修で英語の勉強をしてみて、一緒に行くメンバーの英語力に驚きました。自分が本当に行けるのかと心配になりました。でも、どうすることもできないし、とりあえず単語や使いそうな文法を勉強していきました。ホームステイ先が、同い年の愛子ちゃんと同じになったので、少し安心しましたが、迷惑をかけないようにしようと思いました。



庄内空港から出発するとだんだん日本人が少なくなってきた、外国人が多くなりました。デンバー行きの飛行機には、日本人がいないんじゃないかと思うほどでした。飛行機の中では楽しすぎて全く寝られませんでした。入国審査がとても不安でしたが、質問されるときに日本語で「カンコー？」と聞かれてびっくりしました。日本人は意外と来ているのかなーと思いました。空港から出

てまず思ったことは、「広い！でかい！」でした。自分が本当にアメリカにいるなんて信じられなかったです。

づ
と
れ
い
た。



ホストファミリーは、私がカタコトで分かりづらい英語で質問や説明をすると、理解しようわかりやすく話してくれたことがとてもうれしかったです。ご飯はすごくおいしく、毎日いろいろな料理を食べることができ幸せでした。私は、朝ごはんが好きでした。朝ごはんはワ

ワッフルや、ベーグルでした。ワッフルがとても大きく、びっくりしました。ワッフルが朝ごはんに出てなんて新鮮でした。でも、おいしかったので作ってもらえた時は、うれしかったです。

現地での体験はどれも楽しかったです。一番の思い出は、ラフティングです。川を下るアクティビティですが、始まる前はウェットスーツがとても臭く地獄でしたが、始まると本当に楽しく一瞬でした。また、ツアー中の車での移動も好きでした。歌ったり、寝たり、笑ったり、と様々でしたが、いつも笑っていた気がします。

このツアーに参加して、本場の英語に触れることができ、もっと英語を話したい！と思うようになりました。下手でも、文法ができていなくても、なんとかできました。英語の勉強をもっと頑張ってもう一度このツアーに参加したいです。そして上達した英語でアメリカのことをもっと知りたいです。今までで一番楽しい夏休みでした。このメンバーで行くことができ、本当に良かったです。今回の貴重な体験を無駄にせず、自分の進路や夢を叶える第一歩としてこれからも頑張っていきたいです。



コロラドスタディツアー報告書

鶴岡南高等学校 2年 齋藤 希音

私がコロラドツアーのことを知ったのは、去年の参加者に話を聞いたからです。その話は外国に行ってみたかった私にとってはとても魅力的でした。私はちょうど進路に迷っていて、アメリカに行って新しい体験をしたら自分の中で何かが変わるかもしれないと思い、ツアーに参加しました。

事前研修をするたびに早く行きたいという気持ちが大きくなりました。しかし、出発日になっても実感がわかず、アメリカ行きの飛行機に乗って初めて自分はこれからアメリカに行くんだなと思えてきました。そう実感した途端、入国審査やホームステイでの生活が不安に思えてきました。でも、入国審査は日本語で質問されてあっけなく終わり、自分の心配は何だったのかと思わず笑ってしまいました。



到着後、すぐにホストファミリーと会いました。私のホストファミリーは元気なお母さんのシンシアと優しいお父さんのマット、面倒見が良いケイトリン、恥ずかしがり屋のローガン、やんちゃなチェイスの5人家族でした。ウェルカムパーティーを終えて家に行くと、駐車場にカ

ラフルなチョークで“Welcome to Denver Noa”と書いてあって本当にうれしかったです。家族の一員として迎えてもらえて、この家族が自分のホストファミリーでよかったと心から思いました。ホームステイでの生活は何もかもが新鮮でした。朝は“Good morning!”から始まって、それぞれが思い思いに朝食を食べて、テレビを見たり本を読んだりする。そんな自由な空間に初めはどうすればいいかわからず戸惑いました。2日目のホストファミリーデーではプールに連れて行ってくれました。英語で会話することは難しかったけど遊びの中ではきがるにコミュニケーションがとれて、言葉の壁がなくなった気がしました。私がツアーの日程を終えて家に帰った後も、クッキーを作ったり、映画を見たりと毎日楽しい時間を送れました。

ツアーのアクティビティでは馬に乗ったり、ラフティングをしたりしました。乗馬の日はとても寒く、凍えながら外で朝食を食べたのを覚えています。ラフティングは雨が少し降りましたが、ボートと一緒に乗る係の人がすごくフレンドリーで私たちもつられて盛り上がりました。後ろのボートが岩にぶつかってひっくり返ったことは驚きましたが、みんな水に落ちたのに笑っていて陽気なところがアメリカ人のいいところだなと思いました。どれも日本ではできない貴重な体験でした。



私たちがアメリカに行った期間はデンバーでは珍しいほど涼しく雨も多かったので、ロッキー山脈に上ることはできませんでした。しかし、その分歴史が感じられる街に行ったり、買い物をしたりしました。町のいたるところがオシャレでかわいくてとにかく写真を撮りまくりました。買い物をしていると知らない人から服を褒められたり、店員さんから“Have a nice day!”と声をかけられたり、アメリカ人の優しさにふれました。日本では道ですれ違った人だけの人を褒めることはほとんどありません。他人にいきなり褒められても不審に思われるでしょう。でも、それが自然にできるアメリカが私は好きです。日本でもこんな日常が普通になればいいのと思います。

最終日に行ったレッドロックスではみんなで深い話をしました。一人ひとりがそれぞれアメリカで過ごして感じたことを思い思いに話しました。アメリカ人の優しさや日本と違うところを話し合っているうちになぜか涙が出てきました。特にタカさんの話にあった、日本での差別の話は心にくるものがありました。アメリカでは障害を持っている人に対する差別や偏見がほとんどなく、できないことがある人がいるときは周りが合わせるそうです。日本人にはできるのが普通でできないことがおかしいという意識があるために、差別が生まれてしまうとタカさんは言っていました。よく言えば「協調性」、悪く言えば「みんなと同じであることで安心する」というような性質を持っている人が多いからこの差別意識が生まれるんだと思います。

異文化に触れて、違う視線で日本を見ることで日本がまだまだ外国におとっている部分があることだけでなく、気配りや礼儀など日本が誇れるものがある

ことにも気づきました。アメリカではたくさんの人と話しましたが、日本を褒めてくれたり、好きだと言ってくれる人が多かったです。日本の良さを知ってくれる人がもっともって増えてほしいなと思います。また、アメリカの生活で自分の英語力の不足、特に英語が聞きとれないことを痛感しました。学校の授業だけでは補えない力なので、自分でもできることを始めていこうと思います。英語に対する意欲が高まった8日間でした。

ツアーを通してたくさんの人と出会い、新しい体験をしました。今まで抱いていた外国に対するイメージがより鮮明になり、海外が身近に思えるようになりました。私が見ていたのは小さな世界でしかなくて、まだまだ知らない世界が確実にある。もっと色んな世界を見てみたい、新しいことを学びたいという思いが芽生えました。アメリカの学校を見学したとき、同年くらいの生徒が大人に見えたのは目標を持っているからなんだと思います。夢をもっているいろんな場所で自分の力を発揮している人は本当にすごくて憧れます。自分から行動して、知って、感じて、自分の経験でそんな人に近づいていきたいと思いました。それでも自分だけではできないことだってあります。このツアーのようにだれかの力をかりて知らない世界につれてもらって、新しく好きって思うものに出会うこともあります。私はこのめぐり合いや出会いを大切にしていきたいなと思いました。これからも新しい出会いを通して、自分を成長させていきたいです。



コロラドスタディツアー報告書

鶴岡南高等学校 2年 齋藤 ゆい

私がこのツアーに参加した理由は、本場の英語を実際に感じてみたかったということです。私は4歳から英語を習っているのでとても英語が好きで、将来は英語を生かした職業に就きたいと思っています。でも、いざ英語で会話をしようとするとなかなか言葉が出てこなく、もどかしさばかり残ります。そこでこの企画に参加して、少しでも克服しようと思いました。



ツアーの間や行く前、私はほとんど不安を感じませんでした。不安よりもいつもの環境との違いに対する好奇心のほうが何倍も強かったからです。私は周囲に興味がわくもの、感動するもの、驚くものなどがあると、とりあえず自分がぐるぐる回転して見る癖があります。向こうにはそのようなものばかりで、何か言葉を発するの

も忘れてただただ口を開けて、目を丸くして眺めていました。コロラドで目にするものは何もかもが新鮮で、たくさんの刺激を私に与えてくれました。

アメリカで体験したことはすべて心に残っていますが、特に印象に残っているもの、感じたことを書いていきたいと思います。

一つ目はアメリカの人たちの人柄です。私が買い物に行き、何を買おうか決められず迷っているときに、“I like your skirt.”と急に見ず知らずの他のお客様さんに言われたのです。私は何かの聞き間違いかと思って、思わずもう一度聞き返してしまいました。ものすごく簡単な内容だったので何と返せばいいのかわからず、ただ“Thank you.”と言うことしかできませんでした。その後、レジに並んでいるときに現地の人同士の似たような状況を目の前で見ましたが、私のようにお礼を言って会話を終わらせるのではなく、お互いにそこからちょっとした会話をしていました。また、会計の時は店員さんが“How are you?”や

“Have a nice day.” など、日本では考えられないほど気さくに話しかけてくるのです。アメリカ人はフレンドリーなイメージはもともとありましたが、ここまで親しみを持ちやすいとは思っていなかったうえ、客と店員がほとんど同じ立場で話すことに驚きを隠せませんでした。

2つ目は個々の自由度が高いことです。日本の子供たちは親から「〇〇しなさい」などと言われたりすることが多い印象があります。しかし私のホームステイ先ではそのようなことは1度も見なかったどころか、ホストマザーやホストファザーが子供たちを叱るところすらありませんでした。子供たちがやりたいこと、好きなことを伸び伸びとさせているのは、子供にとってとてもいい環境だと思いました。見学に行った高校でも、一定の学年になると昼食を学校内に限らず、外で食べてきてよいということを聞きました。これも日本では信じられないです。

3つ目はそれぞれ自己主張がはっきりしていることです。日本だと食べ物などの好き嫌いを自分からはっきり言うことはあまりないですが、向こうでは遠慮せずに言っていました。好き嫌いをしないで残さず全部食べなさい、というのは全くなく、家族みんなでお互いにお互いの好みを把握しているようでした。自分のやりたいことなども隠さずに言うので、親もそれを理解しサポートするので、2つ目に書いた自由度につながるのかと思います。

他にもたくさんのことをコロラドで学んできました。このツアーを通して得たものは私の将来に必ず生きてくると思うので、経験したこと一つ一つを忘れないようにしたいです。また、私がこの企画に参加した理由でもあった、本場の英語に触れるということから自分の英語力のレベルを痛感させられました。学校で勉強する英語だけではなく、実際に使える英語も伸ばしていきたいです。

今回、私たちがコロラドに行くにあたって関わったホストファミリーや孝さん、国際村の方々などのすべての人に感謝したいと思います。またいつかコロラドに行き、ホストファミリーに会いに行きたいです。本当にありがとうございました。



コロラドスタディツアー報告書

鶴岡第五中学校 2年 高橋 愛子

私は英語を習い始めた時から「いつかアメリカに行ってみたい」という強い憧れがありました。そして「英語力をもっと磨きたい」と思い、このツアーに参加しました。

私はこれまで勉強してきた英語表現を使ってホストファミリーと英語で話をするように努めましたが、なかなかうまく話せなくて苦労しました。でも、ホストファミリーは、みんなとても優しくフレンドリーで、初対面の私にいつも笑顔で積極的に話しかけてくれました。英語がそれほど上手く話せない私でも、すぐに本当の家族のように打ち解けることができました。「アメリカ人は一生懸命に英語を話そうとする姿勢を理解してくれる。」「話す人の気持ちを汲み取り、こちらから話しかけると、きちんと応えてくれる。」「自分から心を開いて積極的に接してくれて温かいな。」と感じました。そのおかげで、私はまちがいを恐れず、勇気を持って英語で話すことにチャレンジできました。

今回のホームステイ先へのお土産は何がいいかなと考えました。私の住む鶴岡は、国内で唯一の「ユネスコ食文化創造都市」なので、鶴岡の有名なお菓子や料理を紹介しようと思いました。“からからせんべい”を紹介した時、せんべいの中から出てきたものに驚いて「これは何？」と聞いてきました。私は「これは花笠のミニチュアだよ。からからせんべいには工芸品(traditional craft)と呼ばれる昔ながらのおもちやが入っているんだよ。」と説明しました。「おもちやだって！ かわいい！ すごい！せんべいも甘くておいしい」と喜んでくれました。夕食は鶴岡市の名産である「シルク入り麦切り」や「だだちゃ豆ごはんの素」「民田なすのからし漬け」を使ってホストファミリーに料理を作りました。

「シルク入り麦切り」は「おいしいね。」と言ってみんなおかわりをしてくれました。「だだちゃ豆ごはん」は、現地のスーパーマーケットで日本の米が手に入らなかったなので、インディカ米を使い「だだちゃまめご飯の素」と一緒に炊いて作りました。でも、思ったようにうまく作れませんでした。やはり「だだちゃ豆ごはん」



は庄内米を使ってこそ、おいしく炊けるんだなあと実感しました。「からし漬け」は洗わずに、からしがべったりついた状態でそのまま出してしまい、「うわっ すごく辛い!」とホストファミリーから言われてしまい、私は「失敗した!」と思いました。やはり、地元の食材についてのしっかりとした知識がないと、外国に行って「食文化」をきちんと伝えることはできないことも、この経験から学びました。



ツアー3 日目はデンバー市内にある広場で郷土料理の「芋煮」を振る舞いました。大きな鍋に「味噌味」と「醤油味」の芋煮を約 200 人分作りましたが、行列ができるほどのすごい人気で、みんな“Imoni was good taste! (芋煮! おいしい!)”と喜んで食べてくれました。そしてあっという間に用意した芋

煮はなくなりました。毎年この芋煮が食べたくて、雨の日でも多くのアメリカ人がやってくるそうです。私は「芋煮がこんなにアメリカで人気だなんて!」とびっくりしました。そして私たちの食文化を誇りに思いました。

ツアー中に私の価値観を変える出来事がありました。現地の学校を見学した時にアメリカ人のきれいな女の子と出会いました。見た感じは外国人だったのですが、「私には日本人の血も流れているのよ。」と言ったので、みんな驚いて声をあげました。その後の移動の車の中でコーディネーターの孝さんから、「日本人は人種や外見を気にしたり、外見を見てその人を判断したりすることがある。でもアメリカ人は外見なんて気にしない。外見で人を判断することは絶対にしない。外見よりも内面の良さを見ようとするんだ。」と教えてもらいました。私はその言葉に強い衝撃を受けました。私も外見ではなくて、その人の内面の良さを見つけられる人になりたいと思いました。

また、あるホストファミリーの男の子と仲良くなりました。彼の名前はトビーです。彼は 5 歳の時に大好きなギターと出会い、15 歳で自分の夢はギタリストだと堂々と答えていました。好きな事に熱中している彼の姿は、自信に満ち溢れ、すごく輝いていました。一人一人が自分の個性を発揮して、好きな事を

思いつき楽しむ姿が素敵だな、私もこうなりたいな、と思いました。

たくさんのアメリカ人と出会って言われたことがあります。「日本人は礼儀正しくて、まじめで、奥ゆかしい」…と。私は「日本人の良さ」をこれからも持ち続けたいと思います。そして「アメリカ人の持つ心の寛大さ、内面の良さを見ようとする心の豊かさ」を自分の生活にも生かし、周りの人たちにも伝えていきたいです。そして自分の英語力をさらに高め、いつかまた外国に行ったときに、日本や鶴岡の良さをもっともっと伝えていけるよう努力していきたいと思います。

私にとって、8日間のホームステイの経験は本当に楽しくて、忘れることができない宝物となりました。コロラドスタディツアーに参加できて本当に良かったと思います。アメリカが大好きになりました。

国際村のスタッフの皆さん、ラジュー家のみなさん、ホームパーティーを開いてもてなしてくださったホストファミリーのみなさん、現地コーディネーターの孝さん、^{れお}怜往さんたち…には、大変大変お世話になりました。最高の思い出を創ることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。また、那音さん、ゆいさん、希空さん、咲ちゃん、このメンバーとだったから楽しさが2倍になったのだと思います。一緒に行くことがきて、とってもうれしかったです。

コロラドでの貴重な体験を、これからの自分の生き方に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。



素敵な人たちとの
出逢いに感謝



コロラドスタディツアー報告書

羽黒高等学校 2年 我妻 那音

私が今回このツアーに参加した理由は2つありました。1つ目は将来英語教師になるために、もっと英語を上達させたいと思ったからです。2つ目は修学旅行でアメリカに行った時の楽しさが忘れられず、もう一度行きたいと思ったからです。

念願のアメリカに着いた瞬間から私はワクワクが止まりませんでした。今日からどうやって過ごそう…。ホストファミリーはどんな人たちだろう…。そんなことを考えていると、最初のイベントであるウェルカムパーティーが始まりました。私のホストマザーのヴァネッサは色んな質問をしてくれて、私の下手な英語も一生懸命聞いてくれました。その日から私はできるだけホストファミリーに質問などをして会話するようにしました。お別れの時までになんとか成長した姿を見せたかったです。私はホストファミリーのおかげで、少なくとも初日より英語が上達したんじゃないかな、と思います。



コロラドではレッドロックスなどの有名な場所に行ったり、ラフティングという初の体験をしたり、もちろんショッピングなども楽しむこともできました。そしてジョアンの英語レッスンでは、わからなくてもとりあえず伝えたいことを伝えようとする、相手も理解しようとしてくれるということを知ることが出来たので、これからコミュニケーションを積極的に取ろうと思うきっかけになりました。

日本とは文化の違うアメリカ。悪い印象を持つ人もいるけど、それ以上に良い所だと思います。アメリカ人の心の広さは素晴らしいものだと思います。突然やって来た私を本当の家族のように受け入れてくれたホストファミリー。

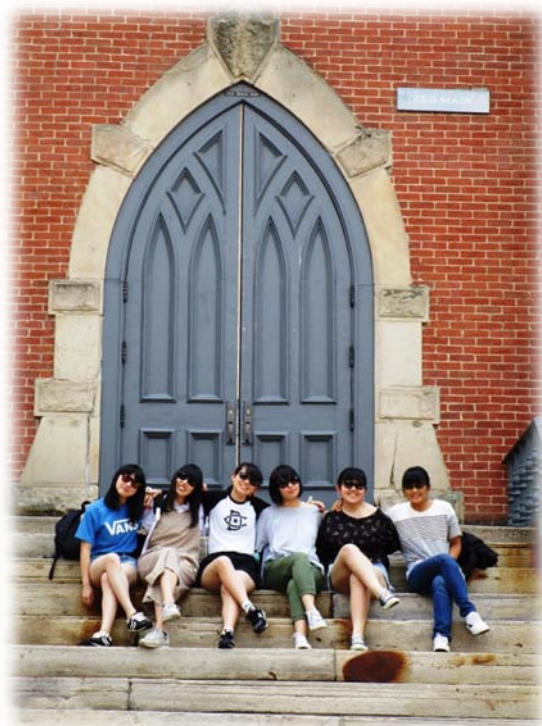


あの家族のところにステイできて幸せでした。ホストファミリーと一緒にプールで遊んだり、みんなで出かけたり、毎日おいしい料理を作ってくれて本当にうれしかったです。アメリカのお店の店員さんはまるで友達のような明るさで接してくれました。わからないことがあって私が聞くと、わかるまで教えてくれました。この優しさを日

本に帰ったら私が誰かにしてあげたいです。

大好きなアメリカが今回のこのツアーでさらに好きになれた気がします。またいつかコロラドに行きたい、そう思える9日間のツアーでした。





(公財)出羽庄内国際交流財団